

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

December / 9 / 2016 # 45

---

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

---

## INDEX

- [1] 旬な話題、気になる話題  
『Stephaneのマスタークラス (&レッスン) 』
  - [2] Pepeのひとりごと  
『来日公演』
  - [3] おすすめ動画  
『John Williams Medley Arranged by Gabor Werner』  
『Best Bolero Trombone Solo』
  - [4] 演奏のヒント！  
『いい音で』
  - [5] 編集後記
- 

- [1] 旬な話題、気になる話題

『Stephaneのマスタークラス (&レッスン) 』

先月号でも書きましたが、11月21日にMiki Gakki Low Brass CenterにてStephane Labeyrie氏のマスタークラスとプライベートレッスンがありました。

僕はこの日、朝から彼の付き添い兼通訳をやらせていただいたのですが、とっても楽しく有益な時間を過ごすことができました！

何年かぶりの再会でしたが、他の友だちと会うとき同様全くそんな感じもなく（まるで先週も会っていたかのような感じ。笑）、楽しい時間を過ごすことができました。

実は、彼のレッスンを見るのは初めてだったのですが、とってもよかったです！

なかなか言葉では言い表せませんが、「音楽」のためのレッスンであり、奏法よりも音楽のことを考えさせながら、実際に奏法がよくなっている、という感じのレッスンでした（生徒さん自身、どうしてうまくできるようになったのか、どう自分の吹き方が変わったのかわかっていないときもありました。笑）。

「奏法」について“いかにも”というようなレッスンをする人が多い中、このようなレッスンをする人は希少だなあ、と感じました（僕も、どちらかと言うとこっちのタイプです。奏法を説明されたがる人の場合には説明もしますが。笑）。

レッスンの進め方、やり方に似たところを多く感じたのですが、これはやっぱり同じ先生について勉強したからなのでしょうかねえ？

その日は通訳に徹していて、最後の食事会のときも周りの人のための通訳をしていたのですが、レッスンの合間の彼のタバコタイムのときに、いろいろと個人的な話もできたので、僕もとっても充実した1日を過ごすことができました。

何より、レッスンを受けた方、Miki Gakki Low Brass Centerのみなさん、厚いサポートをしていただいたヤマハのみなさんに喜んでいただけたのが嬉しかったです！

Stephaneはまた来年も金管5重奏で来日をするようです。そのときにレッスンがあるのかどうかはまだわかりませんが、気になる人は、要チェックですよ！！ :D

## [2] Pepeのひとりごと

### 『来日公演』

先月号と今月号の間で、Black Dyke Bandとパリ管弦楽団の来日公演の様子がテレビで放送されました。

どちらの公演も聴きには行けなかったのですが、テレビでの視聴となりました。SNSでコンサートの感想はいろいろな人からのを見ていましたが、こうしてテレビでも接することができてよかったです（欲を言うと、パリ管はマーラーのプログラムを聴きたかった・・・）。

実際にホールに足を運んでコンサートを堪能したいとは思っているのですが、なかなか難しいんですよ（来日公演に限らず）。

いろいろとうまく予定が合わないとなかなか実現はできない状態ではありますが、可能な限りコンサート会場でコンサートを楽しみたいなあ、と最近特に思っています。

テレビでの視聴ではありましたが、この2つのコンサートからもいろいろと刺激を受け、吸収することがありました！

それらを早速自分の演奏活動に活かして毎日を過ごしています。小さな一歩を積み重ねて、成長し続けたいと思います！！

### [3] おすすめ動画

『John Williams Medley Arranged by Gabor Werner』

<https://www.youtube.com/watch?v=fwYd6w5f6iU&index=3&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg>

今月はTrombone関係の動画を2つ。

まず一つ目は、Hungarian Trombone ConnectionのTrombone8重奏の演奏です。

AltoからContrabassまでを使った、僕の好きなタイプのアンサンブルです（笑）。

全員のことを知っているわけではありませんが、ハンガリーの金管奏者たちのパワフルな感じは、この演奏からもわかると思います。:)  
アンサンブルでこういう曲やってみたいなあ～。:)

『Best Bolero Trombone Solo』

<https://www.youtube.com/watch?v=pJd7KmRN3k8&index=1&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg>

2つ目の動画は、有名なTromboneのソロの代名詞（?）、Ravel作曲のBoleroです。

素晴らしい奏者たちのソロを集めていて、Tromboneのソロのみを簡単に聴くことができます。:D

いろんなソロがあって興味深いですよね！  
僕も、今後の参考にします！！

### [4] 演奏のヒント！

## 『いい音で』

「いい音で」とはいろいろなところでよく聞きますが、みなさん、どんなときにそれを意識していますか？

最近ふと気になったことがあったのですが、ウォームアップのときや、1日の楽器の吹きはじめのときも、いい音を意識して吹いているのでしょうか？

きっと真面目な人はそうしていると思います。・・・そして、真面目すぎるが上に「もっといい音で鳴らしたい」と吹きはじめの時から思って悩んでしまう、という悪循環に陥ったりもします（笑）。

このようなタイプの方は、1日の吹きはじめの音を意識するときに、「最高の音につながるいい音」という認識を思ってみてもいいのではないのでしょうか？

どんなプレイヤーでも、その日の吹き始めから最高の音は出ないと思いますよ。

でも、必ず自分の最高の音につながるいいスタートとなる音で吹き始めてると思うんです。

こういう真面目なタイプの方は、1日の吹き始めで追求しすぎず、もう少し長めのスパン（30分程度？）で捉えてみてください。

きっと、いい感じで吹き始めることができるようになると思いますよ。

今日伝えたいのは、吹き始めのときのことではなく、また曲や合奏の練習の時でもなく、その間のときのこと。ウォームアップや基礎練習のときのことです。

リップ・スラーやスケール（音階）練習の時にも「いい音で」ということを意識していますか？

それぞれの練習の目的（例えば「滑らかに音をつなげる」や「正確なテンポで」など）のことだけを狭く捉えすぎて、いい音かどうかを意識しないでやっちゃっていることはないですか？

ちゃんと常に「いい音で」ということを意識して音楽のための練習になっているのならいいのですが、そうではないかも、と思う人は、ぜひ今日から意識するようにしてみてください。

例えば、いい音で吹こうと意識しなければうまくできるリップ・スラーが、「いい音で」と意識した途端うまくできない、なんてこともあると思います（意外とこういうこと、あるんですよ）。

その場合は、やり方が間違っている可能性が高いです（奏法や  
いい音への意識の持ち方など）。

細かいことは実際にレッスンをしてみないとなんとも言えませんが、  
いい音で演奏する、いい音で練習を重ねていく、ということ意識して  
やっていきましょうね！

---

#### 編集後記

12月に入って、日に日に寒くなってきていますね。  
インフルエンザも流行ってきているようです。  
みなさん、手洗い、うがいをしっかりとやって  
インフルエンザに負けないように過ごしましょうね。

僕は今、今年最後のハードスケジュールの中にいます。  
あと1週間上手に過ごせば、きっと今年もうまく乗り  
越えられるでしょう（笑）。

今年最後のメールマガジンですが、バタバタとした  
中での更新となりました。

また来年もよろしくお祈いします！ ;)  
みなさん、よいお年を～！！

---

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

[info@pepeabe.com](mailto:info@pepeabe.com)